

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地											
北海道エコ・動物自然専門学校		平成14年11月21日	佐藤 俊		〒061-1373 恵庭市恵み野西5丁目10-4 (電話) 0123-36-2311											
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地											
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日	浮舟 邦彦		〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311											
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士											
商業実務	商業実務専門課程	動物看護・ペット学科		平成6年文部科学大臣告示84号	-											
学科の目的	「動物と共生する人、家庭そして社会」を発展させるため、動物福祉を基盤とした専門知識・技術と、自らも生涯学び続ける強い意志を持ち、各々の現場で貢献出来る人材を育成する。															
認定年月日	平成26年3月31日															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技									
	2年 昼間	1725時間	765時間	720時間	2160時間											
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
40		29人	0人	3人	24人	27人										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。 【GPAを算出する計算式】 「GPA=(該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP)の合計÷当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計」											
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月から9月までの間で6週間以内 ■冬季:12月から1月までの間で6週間以内 ■学年末:3月から4月までの間で5週間以内		卒業・進級条件		必修科目の履修 必修選択科目の必要時間数の履修 試験による合否判定 進級・卒業認定会議での学校長認定											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 年度初めに個人面談実施し学習面・生活面・健康面等の不安に応じて随時面談や指導を行い、必要に応じて保護者も含めて対応		課外活動		■課外活動の種類 ・避難訓練・学園祭・国内研修など  ■サークル活動: 無											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 動物病院、ペットショップ、ペットサロン、犬訓練施設		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等(令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)											
	■就職指導内容 担任就職指導 就職担当者面談 動物業界企業説明会の開催 履歴書指導、面接指導等				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物看護師統一認定機構認定動物看護師</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士</td> <td>③</td> <td>19</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	動物看護師統一認定機構認定動物看護師	③	11	9	愛玩動物飼養管理士
資格・検定名	種	受験者数	合格者数													
動物看護師統一認定機構認定動物看護師	③	11	9													
愛玩動物飼養管理士	③	19	18													
■卒業者数 32 人 ■就職希望者数 31 人 ■就職者数 31 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.9 %		■その他 ・進学者数: 0人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)												
■卒業生数: 0人		(令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日 時点の情報)		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等												
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和2年4月1日時点において、在学者65名(令和元年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者63名(令和2年3月31日卒業者を含む)		■中途退学率 3.1%		■中途退学の主な理由 進路変更、病気など  ■中退防止・中退者支援のための取組 個別面談の実施、スクールカウンセラーの活用等											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 兄弟姉妹・保護者減免制度、卒業生減免制度、大学・短大・専門学校卒業者の単位減免制度、特待生制度(筆記または、実技試験) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 R2年度給付実績者 1名															
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無															
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.heco.ac.jp/">https://www.heco.ac.jp/</a>															

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
 企業・業界が求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的に実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 教育課程編成委員会は、教育課程の編成において企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための連携体制等を行う機関として活動し、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業教育を行うことを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
重信 隆夫	一般社団法人楓会 日本獣医中医薬学院 北海道支部長	令和元年9月1日 ～令和4年3月31日(2年7ヶ月)	①
近藤 幸司	よつば動物病院 医院長	令和元年9月1日 ～令和4年3月31日(2年7ヶ月)	③
菅原 大輔	北海道エコ・動物自然専門学校 事務局長	令和元年9月1日 ～令和4年3月31日(2年7ヶ月)	教育課程編成責任者
門田 英敏	北海道エコ・動物自然専門学校 動物看護・ペット学科 学科長	令和元年9月1日 ～令和4年3月31日(2年7ヶ月)	教育課程編成責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
 年間開催数:2回 開催時期:7月及び2月

(開催日時)

令和2年度 第1回 令和2年7月20日 13:00～15:00  
 令和2年度 第2回 令和2年11月8日 15:00～17:00  
 令和3年度 第1回 令和3年8月31日 17:00～19:00 エコ図書室(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

【教育課程編成委員より改善項目】

●3年制移行の先取りが拙速にならないように十分な準備を●地元へ根差した活動が望ましい●基礎学力の底上げは継続的な課題として取り組んでほしい●既卒学生を含めた就職転職支援●栄養指導の強化

【改善項目の実施】

国家資格化に向けた国の公開会議や議事録を精査し、カリキュラム構築を行った。恵庭市と協力したペットマナー講座を実施するなど地元への貢献を学校としても取り組んでいく。転職支援は卒業生とのつながりを確保し続けることが肝要であり、市内企業への転職実績を残した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、並びに動物愛護および福祉に関する意識の向上、教育課程の専攻分野の実務に必要な知識、技術、及び技能の修得又は向上に資する教育等を通じて、学科の教育活動の質の保証・向上を図る

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ドッグスクール等の現場において、専門知識および技能技術を実践。その修得状況を学科教員が訪問すること、研修日誌等の記録を元に振り返り学生にフィードバックするとともに、学科学生全員に還元する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
業界研修 I	業界と連携した学外実習先において、学内で学んだ基礎・応用知識を確認し、チームで働くことができるようになります。	なんぼろ動物病院 菜の花どうぶつ病院 ペットハウス テンテン 札幌ドッグスクール など

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

在校している学生たちも多様化しており一人一人を入学から卒業・就職まで導くために、職員それぞれがカウンセリングマインドを持つことが必要とされている。そのために指導と教授力の向上カウンセリング力の向上を目的とする。また、専門技術知識を伝えるに当たり常に業界の新しい情報を入手し、知識技術の向上を図る必要があり、常に研鑽を続けることを目的とする

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

11月8日 東洋医学セミナー 参加者1名  
12月2日 アレルギーセミナー 参加者1名  
12月9日 HORIBA小動物学術セミナー 参加者1名  
4月28日 愛玩動物看護師の国家資格化に関するwebセミナー 参加者1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成2年8月5日 MS surface研修(遠隔授業関連) 参加者3名  
平成2年10月20日 マネージメント研修 参加者1名  
平成3年3月8日 講師研修会 参加者3名  
平成3年6月7日 Edtech×DX研修 参加者3名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

7月 ジャパンケンネルクラブ訓練士研修会  
7月 中獣医学セミナー  
8月 トリミングセミナー  
10月 ベイジング&トリミングセミナー  
11月 北海道小動物獣医師会年次大会  
11月 動物臨床医学会  
2月 中獣医学セミナー

② 指導力の修得・向上のための研修等

8月3日 文部科学大臣認定職業実践専門課程に係る研修  
1月 北海道専門学校各種学校連合会動物部会職員研修会

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

日々の学校運営については学内の学校長および全教職員会議である「全体会議(定例会隔週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度修了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動についても学校長および全教職員会議である「全体会議(定例会毎週1回)」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育人人材像は定められているか</li> <li>・学校の特色は何か</li> <li>・学校の将来構想を抱いているか</li> </ul>
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか</li> <li>・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか</li> <li>・意思決定システムは確立されているか</li> <li>・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育目標、育人人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか</li> <li>・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</li> <li>・カリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか</li> <li>・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・教員の専門性を向上させる研修を行っているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制はあるか</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか</li> <li>・資格取得率の向上が図れているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> </ul>
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備は出来ているか</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか</li> <li>・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己点検自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> </ul>
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議(定例会毎週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善を実施している。

令和元年9月1日現在

佐藤 翔太	北海道造園コンサルタント 副館長	2019年9月1日～2021年8月31日(2年)	卒業生代表
阿部 あけみ	学生の保護者	2019年9月1日～2021年8月31日(2年)	保護者代表
廣瀬 知己	北海道恵庭北高等学校 進路指導部長	2019年9月1日～2021年8月31日(2年)	高等学校関係者
山田 裕一郎	山田アートフィルム	2019年9月1日～2021年8月31日(2年)	地域関係者
近藤 幸司	よつば動物病院 医院長	2019年9月1日～2021年8月31日(2年)	業界関係者
田中 秀俊	田中動物病院 院長 胆振獣医師会 会長	2019年9月1日～2021年8月31日(2年)	業界関係者
樋原 均	株式会社ペットハウステン・テン 代表取締役	2019年9月1日～2021年8月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 令和3年8月31日

(ホームページ)

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、研究発表会、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供はHPにて公開している

自己点検自己評価による

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

別紙様式4

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

法人決算書及び監査報告書

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

学校関係者評価委員会報告書

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

学校関係者評価結果及び改善方策

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

授業科目等の概要

( 商業実務専門課程 動物看護・ペット学科 )			令和2年度													
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学	自己理解、相互依存等心理学の基礎を学び、自己と他者との関わりを通じて生きる力を修得します。ペットロスに関しても修得します。	2後	15	1	○			○			○		
○			業界研究 I	各専攻の職業的必要性の基本を学び、その学び方、関連する業界の具体的事例を研究します。	1後	15	1	○			○			○		
○			動物形態機能学 I	基本的な犬猫の解剖整理の知識を修得し、臨床に繋がります。	1前	15	1	○			○			○		
○			スタンダード美容理論 I	基本的な道具の使い方やカットの技法を学び、実技に繋がります。	1通	30	2	○			○			○		
○			伴侶動物学	犬猫の伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、および生態についての知識を修得します。	1前	30	2	○			○			○		
○			動物行動学 I	犬や猫の発達、種としての行動様式の特徴を学び、健全な精神的成長、人間社会との良好な関係の成立と維持発展に関する知識を修得します。また、問題行動の原因と対処、予防法を修得します。	1前	30	2	○			○			○		
○			動物行動学 II	犬や猫の発達、種としての行動様式の特徴を学び、健全な精神的成長、人間社会との良好な関係の成立と維持発展に関する知識を修得します。また、問題行動の原因と対処、予防法を修得します。	1後	30	2	○			○			○		
○			動物福祉・倫理	動物愛護や動物福祉(アニマルウェルフェア)、およびその基礎となる生命倫理の考え方について修得します。	2前	30	2	○			○			○		
○			動物飼育実習 I	学内動物の世話、犬のしつけトレーニングの実習を通じ、伴侶動物への理解、飼養管理の知識修得、健康管理、美容などの専門性を習得するとともに、記録と報告、ミーティングで全体把握を通じて自らの役割に応じた積極性、自立性および協働力を習得します。	1通	90	2				○	○			○	
○			動物飼育実習 II	学内動物の世話、犬のしつけトレーニングの実習を通じ、伴侶動物への理解、飼養管理の知識修得、健康管理、美容などの専門性を習得するとともに、記録と報告、ミーティングで全体把握を通じて自らの役割に応じた積極性、自立性および協働力を習得します。	2前	45	1				○	○			○	
○			人間動物関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会的側面から修得します。	2後	30	2	○			○			○		
○			トリミング実習 I	トリミング特有の犬の扱い方、シャンプー方法、はさみなどの器具の扱い方などの基本技能を習得します。	1前	45	1				○	○			○	
○			トリミング実習 II	犬の安全と衛生に配慮したバリカンやハサミを用いたカットと、リボン付けなどの基本となる装飾が出来るようになります。	1後	45	1				○	○			○	

○		トリミング実習Ⅲ		2 前	45	1			○	○						○	
			トリミングの基本的技術を確実に修得します。肛門腺絞り、足回りのカット、シャンプーとドライイングなどを適切な時間で行うことができるようになります。														
○		トリミング実習Ⅳ		2 後	45	1			○	○						-	
○		業界研修Ⅰ	業界と連携した学外実習先において、学内で学んだ基礎・応用知識を確認し、チームで働くことができるようになります。	2 前	45	1			○		○					○	○
○		PCスタンダード	基本的なパソコン技能と、ワープロ、表計算およびプレゼンテーションソフトが使えるようになります。	1 後	30	1			○		○					○	
○		エキゾチックアニマル	エキゾチック動物の歴史、飼育管理法および生態について学びます。	2 前	30	2			○		○						○
○		動物形態機能学Ⅱ	動物の生命維持の仕組みを学び、生命体としての動物を各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基礎を確立する。	1 前	105	7			○		○						○
○		動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1 通	60	2			○		○						○
○		動物臨床栄養学Ⅰ	ペットフードを適切に、安全に、正しく扱えるようになるために必要な知識と法規を学びます。	1 前	30	2			○		○						○
○		動物臨床看護学Ⅰ	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	2 前	30	2			○		○						○
○		実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについての知識を修得します。	4 6 5 時	15	1			○		○						○
○		野生動物学	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について修得します。	2 後	30	2			○		○						○
○		動物臨床検査学Ⅰ	犬猫の健康管理に役立つ糞便検査や尿検査について学びます。	1 前	30	1			○		○						○
○		動物臨床看護学Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を習得する。	2 前	30	1			○		○						○
○		動物臨床看護学Ⅲ		2 後	90	3			○		○						
○		産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼育管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。	1 前	45	1	△		○		△	○					○
○		動物内科看護学実習	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	1 通	90	2			○		○						○

○	動物内科検査学実習	動物看護実技と関連付けながら、検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、実践力を修得する。	1 通	90	2					○	○							○
○	動物看護総合実習 I	動物病院を含む動物関連施設の現場で体験型・補助型の実習を行い、幅広い見識と知識を現場で結びつけるようになります。	1 前	90	2					○	○							○
○	動物看護総合実習 II	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得します。	1 後	45	1					○	○							○
○	業界研修 II	業界と連携した学外実習先において、チームワークに貢献しつつ、自律して能動的に動けるようになります。	2 前	45	1					○	○							○
○	動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学の実践力を修得する。	2 後	45	1					○	○							○
○	動物愛護保護実習	動物保護や福祉の現場に赴き実際に関わることで、保護動物の現実を理解すると共に、関わる人達の熱意へ敬意を払えるようになります。	2 前	45	1					○		○						○
○	動物臨床検査学実習	尿検査・糞便検査・血液検査の復習を行いながら、基礎的な微生物検査の理論と技術を習得します。	2 前	45	1					○	○							○
○	動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 通	90	2					○	○							○
○	卒業制作発表	テーマを設定し、スケジュールを立て、制作や発表を行うことで、時間管理と顧客を意識した仕事ができるようになります。	2 後	30	1					○		○						○
○	飼養管理	犬猫や鳥などの愛玩動物の飼養管理や関連法規の知識を修得します。	1 通	45	3	○					○							○
○	スタンダード美容理論 II	犬の歴史・犬種概要・犬種ごとの特徴・カット理論を修得します。	1 後	30	2	○					○							○
○	スタンダード美容理論 III	犬種ごとの特徴に関する知識や、それぞれのカット理論を修得します。	2 前	30	2	○					○							○
○	犬のしつけ	しつけの為の基本知識や家庭内で起こり得る問題行動の対処法を修得します。	1 後	30	2	○					○							○
○	業界研究 II	業界と連携した学外実習先において、チームワークに貢献しつつ、自律して能動的に動けるようになります。	2 前	15	1	○					○							○
○	グルーミング演習	道具の扱い方、ブードルマネキンを用いたブードルのカット法を習得します。	1 通	120	4					○		○						○
○	トリミング実習 I A	道具の扱い方、犬の扱い方、シャンプー方法など基本	1 前	45	1					○	○							○



○		トリミング実習ⅠB	的なトリミングの技術を習得します。	1 前	180	4		○	○			○	
○		トリミング実習ⅡA	トリミングの基本的な技術をさらに発展させ、時間や正確さを意識できるようになります。接客方法を、犬の飼主様との実践を通じて習得します。	1 後	45	1		○	○			○	
○	界等	トリミング実習ⅡB		1 後	45	1		○	○			○	
○		トリミング実習ⅢA	接客方法の応用力、犬種別の欠点カバーや美的強調など、トリミング技能を実践的発展的に習得します。	2 前	45	1		○	○				○
○		トリミング実習ⅢB		2 前	180	4		○	○				○
○		トリミング実習ⅣA	自ら担当した犬を責任を持って飼主様に手渡し、要望に対する返答ができるようになります。プードルを含めた基本的な多数の犬種のカットができ、衛生管理と健康管理ができるようになります。	2 後	45	1		○	○				○
○		トリミング実習ⅣB		2 後	45	1		○	○				○
○		動物健康管理Ⅰ	健全な犬に必要な日常のケアや適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導ができるようになります。	1 後	30	2	○		○				○
○		動物健康管理Ⅱ	基本的な疾病の知識を修得し、必要な応急処置や適切な飼主へのアドバイスができるようになります。	2 前	60	4	○		○				○
○		ドッググッズプロデュース	犬の洋服、アクセサリ、クッションなどを製作することで、ミンなど道具が使えるようになり、関連する技能を習得します。	3 2	120	4		○	○				○
○		イベントプログラム	飼主や社会へ動物やトリミング技術を還元する企画を立案し、実行します。企画力および実行力を習得します。	3 1	30	1		○	○			○	
○		トレーニング概論	犬の行動に対する客観的洞察力を修得します。またトレーニングの基礎理論を修得します。	3 1	30	2	○		○				
○		家庭犬のしつけ	様々な犬の問題行動の対応、飼い主様へのアドバイスなど実践を交えてアプローチ法を修得します。	2 前	30	2	○		○				
○		動物介在活動	人と人、人と動物の心のつながりについて学び、具体的な活動を通して自らも両者を介在できる知識と具体的な行動モデルを修得します。	2 後	30	1		○	○				
○		イベントプログラムⅠ	公式競技会の運営の仕組みを習得。またその他イベント活動など通し一般飼い主様の対応方法を習得します。	1 前	60	2		○				○	
○		イベントプログラムⅡ	公式競技会の運営および一般向け企画の起案から実行を先頭にたって実施し、企画・運営・実行・エンターテインメント「力」を習得します。	2 通	90	3		○				○	

(令和2年)

	○	トレーニング実習 I	犬の基本的な扱いや犬との接し方、信頼関係の築き方を習得する。基本訓練の手法を習得します。	1 前	180	4				○	○		○		
	○	トレーニング実習 II	公式競技会に向けて、訓練手技の習熟度を高めるための考え方や方法を習得します。	1 後	90	2				○	○				○
	○	トレーニング実習 III	基本の訓練から実践的な訓練まで幅広く、様々な犬に対応する為の手法を習得します。	2 前	180	4				○	○		○		
	○	(令和	基本訓練、アジリティーに加えて、秋季および冬季救助犬の基本的育成および実践に関わり、担当犬で実際に応用できるようになります。	2 後	90	2				○	○				○
	○	マナー講座	社会人として必要な一般的な常識を理解し、挨拶、対人スキル、電話対応などを習得します。	1 後		1			○		○				○
	○	動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を修得します。	1 前		2	○				○		○		
	○	動物感染症学 I	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても修得します。	1 通		4	○				○		○		
	○	動物感染症学 II		2 前		2	○					○		○	
	○	動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得します。	1 後		2	○				○				○
	○	動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について修得します。	1 後		2	○				○		○		
	○	動物臨床栄養学 II	基礎栄養学を深めるとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得します。	2 通		4	○				○		○		
	○	動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを修得します。	2 通		4	○				○				○
	○	動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や主要臓器の組織像などを通じて修得します。	1 後		1				○	○				○
	○	公衆衛生学	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について修得します。	2 通		4	○				○				○
	○	動物外科看護学	外科診療補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得します。	2 通		4	○				○				○
	○	動物医療関連法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割についての知識を修得します。	2 後		2	○				○				○

		○ 動物臨床検査学Ⅱ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得します。	1後	1			○	○		○				
		○ 動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎を修得します。	1後	1			○			○				○
		○ トリミング実習ⅡA	基本となるシャンプーとドライビングが丁寧にできるようになります。カット技術は基礎レベルよりももう一段上の力が身につきます。	1後	1				○	○					○
		○ トリミング実習Ⅱ	時間や正確さを意識できるようになります。接客方法を、犬の飼主様との実践を通じて習得します。	1後	3				○	○					○
		○ トリミング実習ⅢA	時間を意識したシャンプーやドライビングができるようになります。カットレベルはライセンス試験を意識したレベルに到達します。	2前	1				○	○					○
		○ トリミング実習ⅣA	動物病院等で、全ての犬種に共通して必要なベーシックなトリミングが出来る技能を習得します。	2後	1				○	○					○
		○ トリミング実習ⅣB	トリミングライセンス試験に受験でき、突破できる実力を身につけます。	2後	1				○	○					○
		○ トリミング実習Ⅳ	担当した犬を責任を持って飼主様に手渡し、要望に対する返答ができ、基本的なカットができるようになります。	2後	3				○	○					○
		○ トリミング実習ⅣC	即戦力としてトリミングができるレベルに到達し、衛生管理と健康管理ができるようになります。	2後	2				○	○					○
		○ 業界研修Ⅱ	業界と連携した学外実習先において、チームワークに貢献しつつ、自律して能動的に動けるようになります。	2前	1				○			○			○
		○ 動物愛護保護実習	動物保護や福祉の現場に赴き実際に関わることで、保護動物の現実を理解すると共に、関わる人達の熱意へ敬意を払えるようになります。	2前	1				○			○			○
合計					88	科目	3645時間 (171単位)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位(必修全科目および必修選択科目から合わせて1725時間62単位以上)について単位認定試験(追試験・再試験含む)による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			30週						